

KANOYA



西之表から届いた復興へのエール

8月11日、中高生で構成され、ボランティア活動を行っている種子島レオクラブ(西之表市)のメンバーが市役所を訪問しました。これは7年前から鹿屋市と交流のある同クラブが、7月豪雨災害による被災者支援のために募金活動を行い、集まった義援金63万円を届けるために訪れたもの。会長の鮫島ころろさんは「鹿屋市の被害を知り、少しでも力になればいいと思い募金活動を行いました。一刻も早い復興を願っています」と話しました。



海へ向かう尊い命に
成長願いの声を届ける

8月15日、高須海水浴場でウミガメ放流会が行われました。これは、5・6月に高須海岸と浜田海岸で産卵が確認されたウミガメの卵262個のうち、91個がふ化したことから行われたもの。放流会に集まった約250人は、ふ化したばかりのウミガメの赤ちゃんを波打ち際まで運び、海に向かって懸命に体を動かさず姿に大きな声援を送っていました。



一日も早い収束を
願う希望の花火

8月13日、和田井堰公園(打馬2丁目)で「疫病退散祈願花火in鹿屋」が行われました。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、市内各地で夏祭りや花火大会が相次いで中止になったことから、新型コロナウイルスの一日も早い収束を願い地元企業の協賛により行われたもの。当日は午後8時から、7分間で200発の花火が夏の夜空を彩りました。